

～旧約聖書を読んで感じること～ (96) アッシリアと手を組んだ王 アハズ

その統治の最中に同胞である北イスラエルが滅亡しました。その引き金を引いたのはウジヤの孫のアハズ王でした。



アハズ王 Girolamo Tessari 1536

アハズは二十歳で王となり、十六年間エルサレムで王位にあった。彼は父祖ダビデと異なり、自分の神、主の目にかなう正しいことを行わなかった。彼はイスラエルの王たちの道を歩み、主がイスラエルの人々の前から追い払われた諸国の民の忌むべき慣習に倣って、自分の子に火の中を通らせることさえした。彼は聖なる高台、丘の上、すべての茂った木の下でいけにえをささげ、香をたいた。(列下 16:2-4)

北イスラエルの将軍ペカは長い間、王位を狙い、あちこちの部族と手を組み、ついにメナヘムの子を倒して王になりました。アッシリアの属国となった北イスラエルは、今度はアラムの王レツインと同盟を組み、ユダを包囲し、脅威を与えようとしていました。ユダはウジヤ王の時代に軍備を增强し、父ヨタムも、北イスラエルと対峙し、緊張関係が続いていましたが、神殿の祭司たち、また預言者の言葉に従って、勢力を保っていました。

アハズが即位すると、突然バアルを礼拝し始めました。その理由は不明ですが、ヨアシュ、アマツヤ、ウジヤ、ヨタムと歴代の王の母親は、名前も出自も記されているのに、アハズの母親は、名前がないことから、側女であったかもしれません。その母親の信仰を継承したのかもしれませんが。なによりも、アッシリアの圧迫が強く、北イスラエルが侵略されて行く過程を見て、恐ろしさを感じたのでしょう。また、神殿での主への信仰に信頼が薄れて、藁にもすがる思いで、激しい信心、荒行を求めるバアル、モレクの神々に頼ったのかもしれません。父ヨタムと同じように、預言者イザヤ(イザヤ1:2)、ホセア(ホセア1:1)、ミカ(ミカ1:1)が、アハズの時代にも主の言葉を語っていたのにもかかわらず。

アハズはアッシリアの王ティグラト・ピレセルに使者を遣わして言わせた。「わたしはあなたの僕、あなたの子です。どうか上って来て、わたしに立ち向かうアラムの王とイスラエルの王の手から、わたしを救い出してください。」アハズはまた主の神殿と王宮の宝物庫にある銀と金を取り出し、アッシリアの王に贈り物として送った。(列下 16:7-8)

アッシリアの王ティグラト・ピレセルはアハズの申し出を喜び、その願いを叶え、アラムも北イスラエルも滅ぼしました。さらに、ユダ王国をも属国にすることが出来たのです。

アハズ王は、アッシリアの王ティグラト・ピレセルに会おうとしてダマスコに行き、ダマスコにある祭壇を見た。アハズ王が祭司ウリヤにその祭壇の見取り図とその詳しい作り方の説明書を送った…祭司ウリヤはそっくりに祭壇を築いた…王はダマスコから帰って来て…祭壇の上で献げ物をささげた…主の御前にあった青銅の祭壇は、神殿の前から…移して、新しい祭壇の北側に据えた。(列下 16:10-14)

アッシリアの力強さに感動したのでしょうか。アハズは自分の意のままに、神殿の内部も、祭具もアッシリアに似せて作り変えたばかりか、アッシリア王を迎え入れる準備もしました。このように厚遇されたアッシリアはユダに攻め入ることはありませんでした。ある意味では国の安泰を凶った道であったでしょう。けれども同胞の滅亡を代償にして得られた安全であり、「アッシリアのポチ」と言われても仕方のない弱小国の王、アハズの悲哀でした。



アハズ王の封印 1990年発掘